

活動名	おひさまカフェプロジェクト2017	団体名称	NPO法人チャルカ・ジャパン
		活動テーマ	子どもの健全な育成を支援する活動
		活動の目的	⑦自然災害で被災した子供を支援する活動
■活動結果（概要）		■実施スケジュール結果	■各スケジュールごとの活動内容
頻度と関係性の緩急を設けたことで、より心の内面に降れることができ、結果、PTSDの軽減、DVの抑止、親の負担軽減につながった。		行けるときは極力行くようにした結果44回の活動回数となった。後半は、仮設団地の居住者数が減ったため、少しフェードアウト気味に活動するようにしている。	<p>昨年の夏～秋にかけて、子どもたちが精神的に不安定になったため、専門家を投入し、カウンセリングに力を入れた。</p> <p>2017年年末あたりからは、自治会との連携を深め、少し高齢者の寄りそい頻度が増えて行った。</p> <p>2018年4月以降は退去者が増えて行ったので、子どもの数も減少し、カフェに来る人たちも高齢者の占める割合が相対的に増えてきた。バスハイクや子育てセミナーなどを企画し、仮設から出たたちとの交流機関も設けるようにした。</p>
■活動目標	熊本県益城町テクノ仮設A集会所にて、基本的に毎週土日、こどもを中心としたカフェを開催。こどもの健全な育成とその親たちの心のケア、問題解決のサポートを行う。		
■長期成果	出来る限り初期段階で支援を開始することで、家庭の崩壊や、児童の不適切な進路決定や育児放棄を予防し、将来、自立した人間に育成するきっかけづくりを目指している。仮設住宅内と言う性質上、徐々に利用者数が減少してゆくと、数値的には減減する成果となるが、一人でも自殺、いじめ、不登校などから救えればその価値は大きいと考える。		
活 動 風 景			
 <p>昨年なら10人以上居たはずの子どもたち。</p>		 <p>仮設から出た人たちとの交流バスハイク</p>	
		 <p>集会所は高齢者が占める割合が高くなった。</p>	
■得られた成果と今後の課題		■受益者や地域社会の変化	
<p>避難所から仮設住宅2年経過時まで連続して支援させていただき、フェーズとニーズの変化を肌で感じる事ができました。</p> <p>一般的に行われている「支援」が被災者にとって、意味のないものもあるようで、被災者から見聞きした本音を、今後の「支援の形」につなげ、ひろげてゆけるように、機会があれば情報発信を行いたいと思っています。</p>		<p>被災地は社会全体の縮図が表に現れる世界で、社会の問題がすべて集約されています。</p> <p>仮設団地で出来たコミュニティが、仮設から退去することで失われる時期が来ましたが、復興住宅に入る人でも、入居する場所が離れ離れになるようで、今後、どのようなつながり方をしてゆくのかは、見守る他ありません。</p> <p>どうしても、社会的弱者と呼ばれる人たちが、取り残される傾向が強く、そのあたりを民間のNGOがきめ細かくサポートできる体制と社会が出来ればよいと思います。</p>	
		■得られたノウハウの共有・発信	
		<p>地震発生直後の避難所からほぼ毎週2年間にわたり、若い学生たちとともに被災者の交流拠点としてのカフェ活動を行ってきましたが、ここまで独立して継続的に活動している活動は、見る限りおひさまカフェだけとなってしまいました。</p> <p>フェーズやニーズの変化への対応、子どもから大人まで様々なトラブル解決をとおして、柔軟な対応能力が不可欠でした。</p> <p>バスハイク、メンタルケアや様々な専門家をお呼びしてのカウンセリング、他の機関と連携してのDVや不登校児童の生活改善など、きめ細かな企画は、即断即決で行い、反面、その都度体制の見直しや資金調達など苦労したのも事実です。</p> <p>学生側も私たちNPO法人チャルカ・ジャパンもそれぞれに資金調達を行い、学生側に自由に使える資金を提供してくれる支援者も出て来てくれたので、行政や他の支援者が出来ていないきめ細かな支援活動が出来たのは幸運でした。</p> <p>■活動で得られたポイント■</p> <p>(1) 学生が主体的に企画し開催したことで活動の中立性が保たれた。</p> <p>(2) 専門知識や経験を有した大人が側面からサポートし、黒子役に徹した。</p> <p>(3) 避難所から形成した被災者との人間関係を継続・発展できたことで信頼関係が維持できた。</p> <p>一番大切なのは、カタチや効率にとらわれず、いかに関係性を構築できるかが長期支援の大切さではないかと思えます。</p> <p>今後も他の活動も含めてSNS等で地道にコツコツ情報を発信したいと思います。</p>	
〒 818-0101 (住所) 福岡県太宰府市観世音寺5-2-33 (団体名) NPO法人チャルカ・ジャパン (ホームページ) http://www.charkhajapan.org/		助成金額 500,000円	助成期間 H29.9.1～H30.8.31

※長期成果とは、活動目標に向かって継続的な事業を進める中で将来得られる活動成果とします。